



エタノール活用について議論を交わす登壇者

「米エタノールの可能性を探る」

奥州・米エタノールシンポジウム「米エタノールで何で」が3月4日、胆沢文化創造センターで行われ、約100人の来場者がエネルギーの地域循環プロジェクトに理解を深めました。パネルディスカッションに登壇した陸前高田市の八木澤商店・河野通洋代表取締役は「エタノールランプにも活用できるのではないか」と期待していました。



活動への意欲を語る菅原会長（右）

「男女共同参画社会を目指し団体設立」

市民団体「男女共同参画」おうしゅう（菅原圭子会長・会員34人）の設立総会が3月4日、市役所で行われました。同団体は、性別や年代を越えてお互いが尊重し合う社会を目指して活動する、市内初の男女共同参画推進団体です。総会では「誰もが能力を生かして希望の生き方ができる社会を」という団体アピールを採択し活動推進を誓いました。



今後の大地震の可能性を指摘する山本准教授

「防災セミナー開催」

地域ぐるみ防災セミナーが3月10日、市文化会館（Zホール）で行われ、講演と事例発表に自主防災組織関係者ら約200人が耳を傾けました。講演した地震防災工学が専門の山本英和・岩手大学准教授は、市内の震度調査から昨年4月7日の最大余震において前沢区の一部で震度7が推定されたことを公表。「東北地方太平洋沖地震の震源域では、断層が30㌔もずれ、そのひずみのために大きな地震が起こりやすい状況にある」と災害への注意を促しました。

千葉ナツさんⅡ水沢区見分森Ⅱは胆沢区南都田に生まれ、故・惣右門さんと結婚。1男1女をもうけました。惣右門さんが早くに亡くなり、女手一つで朝から晩まで農作業に汗を流し、子どもを育て上げました。若い頃から体が丈夫で好き嫌いもなく、濁り酒の晩酌が楽しみだったそうです。



ケーキを前ににっこりほほ笑むナツさん



おいとこ節を披露するミネヲさん

市は3月に満百歳を迎えた2人に記念品を贈り、長寿を祝いました。千葉ミネヲさんⅡ水沢区黒石字下柳Ⅱは前沢区古城で生まれ、18歳で故・二郎さんと結婚。2男をもうけ、孫7人、ひ孫10人に恵まれました。二郎さんと二人三脚で家業の稲作に汗を流し、子どもたちの教育にも熱心に取り組みました。明るい人柄でよく笑い、よく働いたことが長寿の秘訣です。歌が上手で民謡が趣味というミネヲさん。お祝いに駆け付けた家族や親族に、得意の「おいとこ節」を披露しました。

猫が大好きで、今もぬいぐるみに名前をつけてかわいがっています。

「おめでとー！百歳を祝い2人に記念品」

奥州◇市民劇「ひびけ木貝よー」は、寛政の義民清三郎と正覚坊の青春が3月3日と4日、市文化会館（Zホール）で上演されました。2回の公演に約2300人が来場。感動の舞台を鑑賞しました。この市民劇は、寛政9（1797）年に当地方を中心に沸き起こった「寛政の一揆」が題材。飢饉と圧政に苦しむ農民たちの窮状を仙台藩に直訴するため、江刺区伊手の百姓・清三郎と水沢区真城の山伏・正覚坊が自らの命を賭して一揆軍を率いる感動の物語です。役者たちは皆、迫真の演技を披露。涙あり、笑いありの舞台に、観客は盛んに拍手を送っていました。

1祭りや集会も一揆とされ、広場で歌や踊りを楽しむことすら役人は取り締まった 2清三郎は仙台へ決死の覚悟で向かうことを家族に話す 3清三郎らに請われ、正覚坊は一揆軍の総大将となることを決意 41500人が集った見分森の集会に立つ正覚坊 5正覚坊は捕らえられるが、仙台藩大目付の大槻は農民らの願いを藩へ伝えることを約束する 6農民らの願いが受け入れられ、村では剣舞や神楽を楽しむ。清三郎と正覚坊は天からその光景を見守る



ひびけ木貝よー

寛政の義民
清三郎と正覚坊の青春

奥州市文化会館開館20周年記念公演 奥州◇市民劇

